



あした

子ども総合センターだより



明日もしあわせ通信 (第51号) 令和2年9月号



アプリに気づかせてもらったこと

伊予市が取り組んでいる「ますますい〜よ健康ポイント」に登録してから約半年。寒いから、雨が降るから、と歩かないための口実ばかり考えていた冬の時期。暖かくなったころから言い訳も通用しなくなった。さらにコロナ禍。自粛生活の鬱々とした気持ちがかえって歩くことへと向かわせた。歩いている間のさまざまな気づきや発見、歩いた後の爽快感、自分の足腰もまんざらでもないわいと自己満足。活用し始めてから、生活に張りが生まれたことは確かだ。

一日の終わりにアプリを開いて歩数を送信する。リーグ内での順位が表示される。総合順位、年代別順位、昨日の歩数などを確認する。気になる人のニックネームを探して、ちょっぴり落ち込む。逆もある。自分の目標歩数を超えた日は満足度が増す。アプリに褒められたような、認めてもらったような、そんな気がする。眠りにつく前のわずかな時間に感じる、ちょっと大げさだが、自己肯定感と明日への活力。アプリの力は偉大なり、だ。

大人でも子どもでも褒められるとうれしい。それがアプリであったとしても……。人の言葉ならもっとうれしい。大好きな人の言葉ならなおうれしい。だから、どんな小さなことでもいい、周りにいる人の頑張りを言葉にしたい。



それを歩くこととアプリから教えてもらったような気がする。(W)

適応指導教室「はばたき」 悩んでいる方、見学してみませんか？



夏休みも終わり、2学期が始まりました。例年、この時期には、子どもたちが学校に行きにくくなり、家族で悩まれる方がいます。

そんな方は、一度はばたき教室をのぞいてみませんか。

はばたき教室は開設して5年目になります。子どもたち一人一人の思いを大切にしながら、自主性や自立心を育てている教室です。



学校に行けなくなった子どもたちが、しばらくこの教室に通いながら「心の居場所」を見つけて少しずつ元気を取り戻しています。

午前中は学習、午後からは「スポーツ、調理実習、ものづくり」などの体験活動を行い、子どもたちは徐々に元気や自信を取り戻し、元の学校に登校できるようになっています。また、学校に帰れなかった子どもも、卒業後、毎日高校に元気に通っています。

「学校には今は行けない、今は無理」という子どもも、実際にはばたき教室を見学すると考えに変化が出てきます。「はばたき教室なら、もしかしたら通えるかも？」と自分で思えるようになる子もいます。そうなたただけでも一歩前進です。

いつでも見学にいらしてください。私たち職員は、自分の目指す方向に子どもたちが進めるようしっかりとサポートをしていきたいと思ひます。

はばたき教室連絡先 (電話番号089-989-5022 直通の携帯080-2974-4581)





ラン活、ランラン♪

先日、スーパーに買い物に出かけた時のことです。「そろそろ孫にもランドセルを・・・」と思い、展示されたランドセルコーナーに近寄ってみると、その値段に驚きました。いい値段がついていました。積み立て貯金でもしておかないとすぐには間に合わないなと思ったものです。そう言えば、「ラン活」という言葉があるそうです。ランドセル活動の短縮言葉だそうで、今は家族で悩み選ぶ一大イベントになっているようです。就学児を迎えるご家庭は、今年も気になる「ラン活」になることでしょう。

昔は、ランドセルと言えば、男の子は「黒」、女の子は「赤」が定番でしたが、今はファッション感覚も伴いカラフルになりました。また、カバンの大きさも変わり、一回り大きく作ってあるそうです。その訳は、教科書やノートのサイズがB5サイズからA4サイズに変わったからです。その分、重さも重くなり、児童の負担につながっているとの問題も起こっているようです。

「6年間、毎日元気で学校に通ってもらえるように」、願いを込めての子どもへの贈り物。その思いを受け止め、すくすくと育っていく子どもたち。カバンの色のようにそれぞれに個性を発揮し、大きく育ててほしいと思います。(K.H)



《センター長のつぶやき》

「夢のお手伝い」

今年には考えられない夢のようなお話。私よりずっと若い友人は「大型バイクで北海道ツーリングをする」ことが夢だった。北海道へ何回もツーリングしている私が、夢のお手伝いをする事となった。準備物からコース選定、フェリー・宿の予約など相談しながら万全を期して出発した。

21:15 北海道(小樽)に上陸。次の日から小樽運河、余市ニッカ・神威岬、函館の夜景・大沼公園・白鳥大橋・登別温泉・ファーム富田・青い池・四季彩の丘・美瑛の丘・銀河の滝・日の出岬・宗谷岬(丘陵)・オトンルイ風力発電・オロロンライン・札幌時計台等々をめぐり、余市、室蘭で私の友人とも会ってもらった。23:30 フェリーに乗船し北海道に別れを告げた。友人が2000kmのツーリングを楽しんでくれ、友の奥様に無事故でお返しできたことが懐かしく思い出される。

まもなく大型バイクなど乗れなくなる私である。コロナも収束し、今度は友人から「北海道いくでー」と誘ってくれ、摩周湖、美幌峠、開陽台、釧路湿原、知床など疾走する夢の続きを見たいものである。(DOIG)



「あお虫のいる子育て」

ある日訪れた保育園で、園庭の菜園にいたあお虫が、大事に虫かごで育てられていました。「虫さんおはよう！」と挨拶をして一日が始まります。小さなあお虫が、いつか美しい蝶に変身する瞬間の感動を子どもたちに味わわせたい！という先生方の熱い思いが伝わってきました。散歩で見つけた蛙やかたつむりを持ち帰り、部屋で遊びます。2歳くらいの子が小さな身体で必死に向日葵や枝豆の水やりをしています。

先月は「絵本のある子育て」の大切さをお伝えしましたが、今月は「命を育む子育て」を実践している園を紹介しました。絵本「はらぺこあおむし」の世界を想像させる空間、環境の工夫から、自然や生き物が、子どもを生き生きと輝かせています。命を大切にしている子を見ていると温かい気持ちになりました。経験を通して学ぶことは、子どもの感性を磨き、生きる力になることでしょう。笑顔と愛情あふれる先生方に感謝です。(K)

伊予市子ども総合センター
伊予市尾崎3-1
総合保健福祉センター2階
(電話) 089-989-6226